

ストーマ外来を受診されていますか？

医療法人社団健生会 いそだ病院



今回は、いそだ病院で2020年4月にストーマ専門外来を立ち上げられた岩川和秀先生と、佐藤加代子看護師にお話をうかがいました。急性期病院で20年以上に渡り、1000件を超えるストーマを造られた岩川先生が、ストーマ外来に抱く想いをご紹介します。

左:佐藤看護師 右:岩川先生

岩川先生:ストーマを造った以上は、最後まで責任を持つのが医療者の務め

大腸がんは5年をもって治癒とみなされますが、ストーマ造設者の方との関係は一生途切れることはないと思っています。20年過ぎてても年賀状などでストーマの状態を報告してこられる方もいて、「一生責任がある」と感じることもあります。急性期病院では急性疾患の治療に追われており、一方でストーマ外来は

専門性やマンパワーの問題もあって、患者さんは数か月に1回しか予約が取れないこともあります。管理困難なケースや急な皮膚障害に対応できないこともありました。そこで、退院後も自宅や施設で生じているいろいろな問題を穴埋めできるような外来をと考え、今回ストーマ外来を立ち上げました。さまざまな

施設でストーマを造設した患者さんが相談できる、アットホームな外来を目指しています。ストーマケアを通して地域の医療レベル向上に貢献したいと思ったり、専門施設では勤務していない、専門知識や技術をお持ちの医療者にも、一つの勤務形態として参考にいただければいいかなと思います。

佐藤看護師:気軽に受診ができず困っている「オストメイト難民」は確実に存在します



他の病院を退院されて4ヶ月の患者さんのストーマ外来の様子
1か月の入院ではストーマケアを確立できなかった患者さんも、いそだ病院のストーマ外来のおかげで「自信がついた」とのこと

急性期病院では長年外科病棟で勤務し、その中でストーマケアが大好きでした。地元の患者会の発足に関わり、リハビリテーション研究会の運営にも携わってきましたし、ストーマ外来も始めました。現在、患者さんの在院日数が短くなる中、ストーマケアの自立が退院時に間に合わないことで患者さんやご家族は大きな不安を抱えています。入院中に装具決定ができない方もいます。オストメイトの社会復帰や支援体制の確立に向けて多

方面に要望を出したものの、なかなかかなわない時に岩川先生が医師の立場から動いてくださったんです。ストーマ外来のある病院は少ないうえ、予約枠はその病院の術後患者さんで埋

まってしまう。気軽に受診できず、困っている方は確実に存在します。もっと地域に密着して、オストメイトを下支えしたいと強く思っていたところ、幸運なことにいそだ病院が私たちの構

想に賛同してくださいました。他病院での術後ストーマケア指導は病棟で引き継いで行っていますし、看護師が外来ケアをできるよう積極的に育成指導にも取り組んでいただいています。

医療法人社団健生会 いそだ病院

<https://www.isoda.or.jp/>

084-922-3346

ストーマ外来は、毎週木曜日 午前10:30～ 予約制

地域医療貢献のため、
居宅介護支援、デイケア、
訪問リハビリテーション、
訪問診療などにも
力を入れています！

